

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]
作成日 平成 20年10月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	0791000011		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム 優希の杜		
所在地	〒964-0866福島県二本松市長命68-1 (電話) 0243-22-0197		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年9月26日	評価確定日	平成20年10月20日

【情報提供票より】(平成20年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤	12人, 非常勤 3人, 常勤換算 13人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての 1 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	9,000円(2月~10月) 12,000円(11月~3月)
敷金	有()円 ● 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	● 有(19,950円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200円

(4) 利用者の概要

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	3名	要介護2	6名		
要介護3	9名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	名		
年齢	平均 82.9歳	最低	77歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安斉内科胃腸科医院 渡邊歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道に近い場所で周囲は田園風景に囲まれ企業の工場等があり、今後発展が予想される地域に建てられた2ユニットの事業所である。運営面においては運営推進会議の積極的活用や、利用者とのコミュニケーションを中心とした信頼関係の構築や、現状に即したケアプランに基づく適切なサービス提供等、運営者、管理者、職員が一体となって質の高い支援が行われている。民家が点在している地域であるため、運営推進会議の委員からは、地域密着型サービスを提供する事業所として孤立することなく、地域と連携した運営が可能となるよう協力体制を整えようとする姿勢が議事録からも感じられる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の指摘事項である運営推進会議については、定期的開催され、委員と事業所との双方向による効果的会議運営が行なわれている。外部評価の結果を報告し改善に向けての意見交換がなされている。災害時備蓄についても十分整備されてある。暖房用の器具についても検討することとしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の意義を理解し職員全員で取り組み、管理者が評価の総括を行ない、運営者も確認をし、改善に向けての取り組みがなされている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 管理者による報告事項を基に活発な意見交換がなされている。議事録からも発言者の内容が詳細に記載されており、サービスの質の向上に向けた取り組みや、地域の行事への参加呼びかけによる交流促進等効果的な会議運営が行なわれている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月定期的に、職員が家族に対し手書きのお便りを添え利用者の近況を伝え、また、通院記録、運営推進会議録も併せて送付している。隔月ごとに事業所便りも発行している。金銭管理については必ず担当者と管理者によるダブルチェック体制を徹底し領収書の原本を送付し確認を得るなど適正に処理されている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営推進会議を通して、地域の敬老会や運動会等の行事を把握し、出来るだけ参加するようにしている。また、住民によるクリーンアップ作戦として定期的実施している清掃活動にも参加し、利用者の散歩コースのごみ拾いを行なっている。演奏ボランティア(大正琴、マジック、オカリナ、尺八等)の受入れも積極的である。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の他に、地域との交流を重視した利用者主体の生活支援を行う理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	共有スペースには、事業所の理念が掲げられており、職員は日頃から理念を意識しお互いに共有しながら支援に努めている。業務日誌の表紙にも理念が添付され、記録をする度に確認することができるようになっていた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民家が点在しているが、地域住民が集まって行なわれる地区運動会や清掃活動にもできるだけ参加し、機会を捉え、地域の人たちとの交流を深めるよう努めている。ボランティアの受け入れについても積極的である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については職員全員で取り組んでおり管理者が総括し、運営者も確認し、評価結果を踏まえてサービスの質の向上に反映させている。前回の外部評価の結果についても早急に改善されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催され、サービス内容に対する支援や地域連携等にかかわる具体的効果が表れている。会議録は詳細に記載され、利用者の家族の方にも送付されており、会議の結果が利用者サービスの向上に活かされている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への報告は月1回定期的に行なわれ、職員の手書きのお便りや通院記録、運営推進会議の議事録等も併せて送付している。家族ぐるみの訪問もあり、家族の理解が得られている。金銭管理もダブルチェックにより適正に処理され、家族の確認も得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に家族の来訪が多いので、気軽に意見や要望等を聞く機会を設けたり、運営推進会議の場を活用し意見等をうかがうなどの配慮をしている。また、内外の意見をもらえるよう廊下に動物の形をしたユニークな意見箱を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動件数は少ない。居室担当制をとっており、ローテーションを変更しながら利用者との馴染みの幅を広げている。また、出勤時は必ず、担当外の階の利用者にも挨拶に行き、全員で馴染みの関係を築いている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人があらかじめ内部研修予定表を作成し、事業所が必要とする研修に参加している。研修報告については、全員に回覧し共有している。○J T (職場内研修) も実施している。なお、法人が予算配分をし、事業所の判断による研修を検討している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内のグループホームとの交流や情報交換は行なっているが、地域内の他法人のグループホームとの交流はまだ行なっていない。	○	同一地域内の他法人のグループホームを視察したり、実践的交流を行なうことにより、一層のサービスの質の向上や管理運営について習得されることが多々あると思われる。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	居室担当者制をとっているが、担当外の利用者とも出勤時必ず挨拶を交わしコミュニケーションを図っている。また、先輩として利用者に生活の知恵を習うなどして感謝の意を表している。編み物や習字、草むしり等得意分野の場作りに配慮し、相互が支えあう関係づくりに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの情報を活用しながら現状を把握し、利用者の日々の生活から思いや意向を感じ取りまた、家族からの情報を取り入れながら、ケアに反映するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を取り入れながら現状を見極めた計画を作成している。職員がケアプランを意識しながら利用者支援に心がけている。ケース会議での記録にも課題が明確化されており、職員の意見が反映されたものとなっている。		できれば、ケアプランのサービス内容ごとの記録が、日々の介護記録に記載されてあると、よりモニタリングが容易になると思われる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間を設定し見直しを行なっている。状態変化に対しては利用者、家族と話し合い、随時の見直しを行い現状に即した計画となっている。見直しの過程が明確になっており、職員全員が計画の遂行状況や効果等を理解しており、質の高いケアが可能となっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携は密であり、原則として職員が診療に付き添い支援している。受診記録は家族に報告し、情報の共有を図っている。今後は職員の勤務体制上、家族による受診支援も検討しているようである。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期の対応については職員も充分理解しており、家族に利用者の重度化と終末期のあり方について方針を示し、事前に書類で確認し同意を得ている。また、緊急時の入院先は前もって決めてあり、面会時などを利用して早い段階から本人・家族と繰り返し話し合いをされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	管理者、職員は利用者のプライバシー確保の徹底について理解し、採用時に誓約書を取っている。利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう、言葉や声かけにも留意している。また各利用者等に「個人情報利用同意書」について説明し、同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、その日に本人がしたいと思っていることを大切にしてその都度確認し、希望を把握しながら支援している。利用者の体調や思いに配慮しながら、ゆったりと過ごせるようにと努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者も一緒に食事をし、利用者の能力に応じ食事の下ごしらえや後片付けを一緒に行っている。利用者がイナゴ捕りをし佃煮にしたり、餃子を包んだり、利用者ならではの調理内容で楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴は、本人の生活習慣や希望に合わせてるように計画し、利用者の希望を確認した支援をしている。職員は、同性入浴介助により、利用者の羞恥心等に十分配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	生活歴の中から楽しみごとや得意分野等を把握をし、利用者の経験や知恵が発揮できるような場面作りを行なっている。食器洗いなども得意な方をお願いし、洗い足りないところはさり気なく食洗機を使うなど、きめ細かな配慮が見られる。また、お願いした場合も感謝の言葉を伝えながら共に楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	田園風景に囲まれて自然環境に恵まれていることから、利用者の希望やその時の体調に合わせ、散歩に出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の玄関は施錠していない。少し外へ出るとバイパスがあり、危険が多いため、玄関にはセンサーがつけられており、職員がさりげなく見守り、外出の気配を察知し、一緒についていくなど対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を計画し地域住民の方々の協力を得ながら実施されていた。自衛消防隊を編成し緊急時のマニュアル等を整備し、日頃より緊張感を持って対応している。運営推進会議では、地域の人々との協力・連携を求めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、生活チェック表により利用者の食量や水分摂取量等を確認し記録している。利用者ひとりひとりが毎日中で必要な食事や水分がとれるような支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は2ユニットで雰囲気が異なり、利用者の状態に合わせた空間作りに努めている。畳や掘りごたつがあり、利用者は居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれに馴染みの物を持ち込み、利用者が過ごしやすい居室となっている。利用者に合わせて居心地の良いプライベートのスペースになるよう職員は家族と協力しながら支援している。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム優希の杜

記入担当者名 武田 京子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。